令和　　3年度　学校評価総括表　　学校名 生駒東小学校　　所属長名　　古川　奈保子

教育目標	広く世界に目を向け、次の世代を担う、豊かな心をもった、たくましい子どもの育成 ・ めざす学校　（○笑顔にあふれ、生き生きと学び合う学校　○花を愛し、音楽を愛する心が育つ学校　○安全に、安心して学べる学校） ・ めざす子ども（○自ら学び、深く考え、行動する子ども　○思いやりがあり、助け合う子ども　○自他の生命と体を大切にする子ども） ・ めざす教師　（○豊かな人間性と教育的愛情をもつ教師　○常に新たなことに挑戦する教師　○学校組織の一員として自覚を持ち、協働する教師）

前年度に残された課題	本年度の重点課題	来年度に残された課題
①朝のストレッチや授業を通して、児童の基本的な体力を高めていく。また、低学年から系統だてて指導できるように、各学年での指導内容を明確にしていく。 ②なかまと協力し楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。 ③落ち着いた学校生活が送れるよう、職員で指導について共通理解を図りながら声かけを徹底していくとともに、生活目標「心地よい　学校生活を送ろう」をより高めていくため、児童自ら主体的に学校の規範作りをできるよう、各委員会を通して取組を続けていく。 ④言語活動をより豊かなものにするために、タブレットを効果的に使う授業の工夫を目指して、取組を進める。	①授業や朝のストレッチを計画的に行い、課題である柔軟性や筋力の向上を目指す。また、感染症予防に配慮しながら、仲間や運動と多様なかかわりを通して、運動の楽しさに気づかせたい ②なかまと協力し楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。 ③児童自ら生活を振り返る中で、その活動意義を掴みとり、主体的に行動できるようにする。また、児童がお互いに声をかけ合いながら規範意識を高めていく。 ④各教科でタブレットを効果的に使い、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる力を養う授業の工夫を目指して、取組を進めていく。	①朝のストレッチや授業を通して、児童の基本的な体力を高めていく。また、低学年から系統だてて指導できるように、各学年での指導内容を明確にしていく。元気マラソンに代わる冬の体力づくりの取り組みを考える。 ②なかまと協力し楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。児童が自主的に取り組みを進めることができるよう、指導助言を行う。 ③落ち着いた学校生活が送れるよう、職員で指導について共通理解を図りながら声かけを徹底していくとともに、生活目標「心地よい　学校生活を送ろう」をより高めていくため、児童自ら主体的に学校の規範作りをできるよう、各委員会を通して取組を続けていく。 ④言語活動をより豊かなものにするために、タブレットを効果的に使う授業の工夫を目指して、取組を進める。情報モラルを高める学習を、系統的に実施する。

重点課題番号	具体的達成目標と評価指標 具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化 公表日 5月21日 公表方法 ホームページ / 文書配布 / 説明会実施 / その他	評定	自己評価 中間評価 評価日 8月30日 公表日 9月1日 公表方法 ホームページ / 文書配布 / 説明会実施 / その他	外部アンケート 児童生徒アンケートからの分析 評価日 1月12日 公表日 1月20日 公表方法 ホームページ / ☑ 文書配布 / 説明会実施 / その他	保護者アンケートからの分析 評価日 1月12日 公表日 1月20日 公表方法 ホームページ / ☑ 文書配布 / 説明会実施 / その他	評定	自己評価 最終評価 評価日 1月26日 公表日 2月末 公表方法 ☑ホームページ / 文書配布 / 説明会実施 / ☐ その他	学校関係者評価 評価者人数 9人 評価日 2月24日 公表日 3月初め 公表方法 ☑ホームページ / 文書配布 / 説明会実施 / その他
1	○ストレッチを計画的に実施できるように、年間計画を作成する。具体的な動き、効果がわかるように終礼等で先生方に紹介する。 ○仲間と楽しく身体を動かすことができるように、各学級で学級遊びを行ったり、運動集会への参加を促したいする。 ○学習カードを活用し、振り返りをすることで、自分の技能の伸びに着目できるようにする。 　以上の取り組みにより「運動することが好き」という児童が90%、「体育の勉強でできることが増えた」という児童が90%を超えるようにする。		「運動することが好き」、「体育の勉強でできることが増えた」と答えた児童は90%を超えている。アンケートの結果から、児童は、授業を意欲的に取り組み、自分の成長を感じていることがわかる。しかし、休み時間に全く身体を動かしていない児童(5，8%)もいるので、授業はもちろん、学級遊びや運動集会の実施などを通して、仲間と身体を動かすことの楽しさを味わわせたい。また、授業では、これまで以上に多くの児童が自分の伸びを実感できるように学習カードを用いて振り返りをしたり、教師が児童の伸びを取り上げて認めたりしていきたい。	どの項目も1学期に続いて、肯定的な意見の割合が高い数値になっている。達成目標であった「運動することが好き」、「体育の勉強でできることが増えた」と答えた児童の割合を90%を達成することができた。授業を実態に応じて計画的に行うことで児童が体力の高まりを感じ、運動を好きになる児童が増えている。今度も児童が進んで運動に取り組めるように学年、学校として連携して継続的に取り組んでいきたい。	「学校は、子どもの体力向上に取り組んでいる」の項目で肯定的な意見が95.2%の高い割合であった。 　運動集会や運動会などの取り組みが保護者にも浸透しており、またホームページや学校便りなどでも情報を発信していることが要因と考えられる。今後も引き続き取り組んでいきたい。		感染症に留意しながら体力向上に取り組むことができた。体育の授業では、各学年、児童の実態に応じて教材や運動内容を工夫しておこなうことができた。各学期におこなっている運動集会では、日頃の練習の成果を発揮して、達成感や充実感を味わわせることのできる機会となっている。他には、学年での運動タイム、朝のストレッチなど、計画的に児童の体力向上に向けた取り組むを行うことができている。児童は様々な取り組みを通して、運動に親しんでいる。特に、短縄とびに1～6年生の多くの児童が励んでいる。低学年は高学年に憧れ、高学年では、低学年からの積み重ねがあり、難しい技に取り組み、本校のいい伝統として続いている。 アンケートで「運動が好き」「体育の授業でできることが増えた」と答える児童がこれからも達成目標を超えることができるように取り組んでいきたい。	・子どもと一緒に遊んでくれる先生が多いのは、子どもを運動好き・外遊び好きに育てるために、とても良いと思う。 ・縄跳など、全校で取組を進めることで、着実に力をつけてきている。 ・プール横での活動に、転んで大けがをしないか不安がある。密状態にならないような手立てが必要ではないか。
2	○児童の実態を把握し、支援の方法について研修する。 ○授業のユニバーサルデザインの取り組みを収集し、「ぽかぽか便り」等を通じて、教師間で共有する。 ○「ぽかぽか言葉」の年間計画に基づき、指導を行う。 　以上の取り組みを行い、「なかまと共に学ぶ」ことを嬉しく感じる児童を85%以上にする。		日々児童の実態把握に努めると共に、ぽかぽか便り等でユニバーサルデザインの研修を続けている。アンケートに関しては、全ての項目について肯定的な回答をしている児童の割合は高い。特に、「学校生活でお互いに協力して仲良く活動できた」・「相手のことを考えて、やさしく声をかけることができた」という項目に対しては、肯定的な回答をした児童が9割以上おり、学年が上がるにつれ割合が大きくなっている。これは、教師集団の中で共通理解を進めながら、あらゆる場面において指導を行ってきている成果だと考える。今後も、行事や学級活動などの様々な取り組みを通じ、友達と協力することに喜びを感じる児童が増えていけるように指導していく。	「協力してなかよく学校生活を送ることができている」という問いに対して肯定的に回答した児童は、96.3%であった。また、「仲間が頑張る様子を見て、自分も頑張ろうと思うことがある」という問に対して肯定的な回答は86.2%であった。これらの回答は、「なかまと共に学ぶ」ことを嬉しく感じる児童を85%以上にするという目標を達成することができたと言える。年間を通して、行事などで仲間と力を合わせて取り組む活動を設定したことや、日々様々な場面で細やかに指導してきた成果が表れていると考えられる。今後も児童の様子に気を配りつつ指導を続けたい。	「子どもは、友だちと仲良く学校生活を送っている」の肯定的な回答は94.7%、「学校は、子どもたちに思いやりの心を持たせ楽しい学級作り・学校作りに取り組んでいる」の肯定的な回答は90%であった。どちらも高数値と言える。「学校は、子どもたちに思いやりの心を持たせ楽しい学級作り・学校作りに取り組んでいる」という問いに対しては、昨年度よりも肯定的な回答の割合は高くなっていた。引き続き、懇談会や通信などで学校の取り組みを伝えていきたい。また、児童の小さな変化に目を配り早期に指導するように、いっそう心がけていきたい。		「協力してなかよく学校生活を送ることができている」「仲間が頑張る様子を見て、自分も頑張ろうと思うことがある」と肯定的に回答した児童は目標数値である85%以上を超えることができた。コロナの影響により学校行事などが以前とは減ってしまってはいるが、新しい生活様式の中でも、工夫しながら、学級活動や行事などで仲間と力を合わせて取り組む活動を設定することや、教師間で連携しながら細やかに指導してきた成果が表れていると考えられる。ただ、否定的な回答をした児童も少数ながらいるので、日々、児童の様子に気を配り、対応が必要な場合は早めに対応をしていくことを心がけていきたいと考える。	・アンケートの結果について、肯定的な数値だけではなく、「できない」と答えている児童について目を向けてほしいと思う。 ・クラスで起こったこと（物がなくなるなど）について、指導を行うと同時に、保護者にも知らせてほしい。 ・東小学校には、継続的ないじめがないと聞いて安心した。
3	○年間目標を各教室・廊下等に掲示する。 ○委員会の児童を中心に、お互いに声かけをさせて廊下の歩き方を意識させる。 ○サイレント掃除をし、みんながきれいと思える清掃活動をさせる。 ○相手にとどく、心地よいあいさつができるよう、心がけさせる。 　以上の取り組みで、廊下歩行の約束を守れた子80%以上、みんながきれいと思える掃除ができたと思える児童80%以上、相手にとどくあいさつができたと感じる児童90%以上にする。 ○夏季休業中に、廊下中央の印を描き直し、右側通行を意識させる。		廊下歩行については、右側通行ができている児童は全体の91%(昨年度85%)で、歩いている児童は86%(昨年度74%)であり、昨年度と比較すると多い。走ってしまう児童の理由としては、「急いでいたから」を選んでいる児童が69%(昨年度61%)と一番多く、次いで「なんとなく。」と回答している児童が20%(昨年度3%)と例年と比較して多い。学校での生活の仕方について再度指導していく必要がある。 　また、清掃活動では、86%(昨年度82%)の児童ができていたと回答している。しかし、学年ごとに見ると、本年度の数値目標である80%を下回っている学年もあり、「サイレント掃除」の意識付けを徹底していきたい。 　あいさつは、全体で93%(昨年度90%)の児童ができたと回答している。地域でのあいさつも含め、続けていけるように指導していく。 廊下歩行については、右側通行ができている児童は全体の91%(昨年度85%)で、歩いている児童は86%(昨年度74%)であり、昨年度と比較すると多い。走ってしまう児童の理由としては、「急いでいたから」を選んでいる児童が69%(昨年度61%)と一番多く、次いで「なんとなく。」と回答している児童が20%(昨年度3%)と例年と比較して多い。学校での生活の仕方について再度指導していく必要がある。 　また、清掃活動では、86%(昨年度82%)の児童ができていたと回答している。しかし、学年ごとに見ると、本年度の数値目標である80%を下回っている学年もあり、「サイレント掃除」の意識付けを徹底していきたい。 　あいさつは、全体で93%(昨年度90%)の児童ができたと回答している。地域でのあいさつも含め、続けていけるように指導していく。	廊下歩行については、できていると回答した児童が78%と、目標の数値にはとどかなかった。特に、休み時間の前に教室から飛び出して遊びに行ったり、教室に戻る際に走って戻ったりといった行動が多く見られた。また、階段で走るといった行動も見られると、校舎内を走ることで怪我につながることが意識できていない行動がみられる。廊下を歩くことの必要性や意義を伝えるとともに、「余裕を持って学校生活を送る指導」が必要である。 　掃除は、86%の児童ができていると回答し、各学年実態に応じてサイレント掃除の意識も高まってきた。また、生活のめあて強化週間中は、より意識して掃除ができている。 　あいさつは、元気にできる児童が多い。しかし、自分はしているつもりでも相手に伝わっていない時もあるので、相手を意識して丁寧に自分からできる児童が増えるよう、今後も指導する。	「子どもは、交通ルールを守って登下校をしている。」については、肯定的な意見が95%で、理解いただいている。地域の方々の立哨や声掛けの支援に助けられているところも多いので、今後も連携していきたい。 「子どもは、あいさつを進んでしている。」の項目については、「できている」と感じている保護者が81%であった。校門前の登校指導では概ねできていると感じる。来年度以降も、決まった場面だけでなく、相手を意識し場に応じたあいさつを自分からするなど、あいさつの質がさらに向上するよう、声掛けを大切にしていきたい。		「生活のめあて強化週間」を毎学期実施し、高学年の児童が下学年に声をかけたり、ていねいな学級指導をしていただいたりすることで、休み時間の終わりに予鈴がなると運動場にいる大半の児童は走って校舎に戻るなど、引き続き児童の規範意識は高く、落ち着いて学校生活を送れている。また、高学年の児童が下学年に声をかけることで、自ら廊下歩行やサイレント掃除を守ろうとする意識も高まった。しかし、校内のきまりに関して指導が徹底できていなかったところもある。引き続き落ち着いた学校生活が送れるよう指導していくとともに、気持ちの良いあいさつを目指すなど、学校生活の質の向上を目指していきたい。	・あいさつについて、明るくあいさつができない子もいるが、それも認めていくことが大切である。異学年で仲良く登校しているように見えて、実はプレッシャーをかけられていることもある。注意して見守りたい。 ・なばた幼稚園横の交差点が、交通量が多くスピードを出している車が多いので、心配である。
4	○タブレットの効果的な使用（活用）方法について研修を行う。 ○各教科でタブレットを使い、自分の考え、気持ちを伝え合うことができる力を養う授業の工夫を目指す。 　以上の取組を行い、「相手に考えを伝えることが得意」という児童80%以上、「相手と考えを伝え合うことができる」という児童を80%以上にする。		タブレットの効果的な活用にむけて、児童の実態把握アンケートを実施した。「相手に自分の考えを伝えることが得意ですか」との問いでは、とてもとくいやとくいと答えた児童がすべての学年で80%を下回った。「間違えるのが嫌だから」や、「緊張するから」などの理由であった。また、「自分の考えを文章に書くのは得意ですか。」との問いでも同様の回答率であった。ただ、相手の考えを聞き、共感を持つ児童は非常に高いこともわかった。 　結果を踏まえ、二学期以降はタブレットを用いて意見交流や共有の場を増やしたり、様々な「伝え方」で自分の考えを伝えたりできるような授業を行い、目標の達成を目指す。	「タブレットを使って自分の考えを出すことができましたか」という問いに対しては、どの学年も90%以上の回答が得られた。特に高学年は95%以上と非常に高くタブレットの活用に慣れ使いこなせるようになってきていることが伺える。また、「タブレットを使って友達の考え（意見）を知ることができましたか」という問いに対しても、90%以上の回答が得られた。これからも授業の中で効果的にタブレットを活用しながら、意見を出すことに慣れ、気持ちを伝え合うことができる力を養うための授業を目指し取り組んでいく。 　タブレットの使い方や約束・情報モラルについても、定期的に振り返り正しい使い方を徹底していく必要がある。	「子どもは落ち着いて、人の話を聞いたり自分の考えを話したりするようになっている」の項目では、AB合わせて89%と前年度より少し高くなった。 　また、タブレットを使った学習への関心が高まっている」では、AB合わせて90。5%と高かった。授業参観やオンライン授業でタブレットを使用している子どもの姿を見ていただく機会が多かったのも良かった一つの要因になっていると考える。		ロイロノートやMeet、デジタル教材など様々なものを使用しながら効果的な活用方法を見つけるための取り組みを続けることができた。いろいろな教科で使用したことで、少しずつ教科の選別ができるようになってきているので、引き続き効果的な使用（活用）方法について研修をすすめていきたい。 　タブレットに慣れてきたことで、学習以外に用いたり約束を守れていない児童も少しずつでてきている。使い方や約束を定期的に確認し、正しく使えるような指導もしていく必要があると感じた。	・タブレットが導入されてから、家で操作する時間が増え、親子の会話が減っている。 ・タブレットの文章で、意味が本当に伝わっているか不安がある。誤解が起こらないようにしなければいけない。 ・SNSの中での、見えないいじめが心配である。 ・問題が起こったときに、大人に相談することが大切、無菌状態ではこれからもいられないと思う。 ・タブレットを使用するにあたって、ルールや取り扱いについて、何度も教えていく必要がある。 ・児童の作文を読む機会があったが、自分の気持ちを文章に書けない児童が増えたように思う。また、漢字の間違いが増えているのも気になった。 ・タブレットで書き込みをしても、子どもたちに伝えているという実感がないように思う。大切なのは会話だと思う。 ・タブレットが重く、教科書を学校に置いて帰るため、急な欠席の時に家に教科書がなくて困った。 ・タイピングの練習をさせてほしい。 ・このような場で親の困りごとを伝え、学校や市教委で解決できるようにすることは大切なことである。